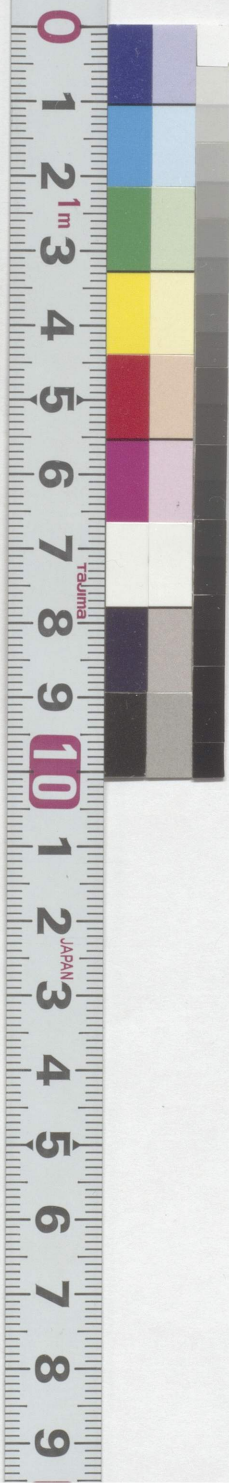


算法通解

下

和五三三三



桃舎藏

○呉服本綿袂賣買之事

今ある二版二の本袂而式十尺ありは金を何程と問

答金半寸五寸或は寸或半寸振或五寸

袂、四尺式十尺及とおれ之及よりくは金永とあると金之上
なり

○今繻天^作五尺あり是と曲尺より何程と問

答曲尺五尺八尺七寸五分

袂四尺下の天^作五尺五尺とおれ是法八寸より曲尺一丈八尺
七寸五分とある

○今曲尺五尺七尺五寸あり是と繻尺より何程と問

答五尺四尺

御し四曲天壹丈七尺五寸と御規定法八寸とありて下らさ
壹丈四尺とあり

○今異振尺之丈之尺あり是と曲尺ありて何程と同

各曲尺之丈九尺五寸

御し四異振尺之丈之尺と御規定法一個或寸とありて曲尺之丈
九尺六寸とあり

○今曲尺之丈七尺あり是と異振尺ありて何程と同

各或丈或尺五寸

御し四曲尺之丈七尺と御規定法十二寸とありて異振尺之丈
或尺五寸とあり

○今下ら尺壹丈或尺ありて是と異振尺ありて何程と同

各異振尺壹丈或尺五寸

御し四異振尺壹丈或尺と御規定法九寸とありて異振尺とあり

○今異振尺壹丈五尺五寸ありて何程と同

各或尺四尺八寸八分

御し四異尺之尺壹丈五尺五寸と御規定法九寸とありてあり

○此さうの事ハ最上ノ如ク之れト今又之ヲ再出スル

曲尺一尺ハ	異振尺一尺ハ	異振尺一尺ハ	異振尺一尺ハ
異振尺八寸	異振尺一尺二寸五分	異振尺一尺四寸一分	異振尺九寸六分
異振尺一尺二寸五分	異振尺一尺四寸一分	異振尺一尺二寸	
異振尺一尺四寸一分			

但し異振天は今用あるのみなりと以てども中六懸天と
異振天とあひかざる人の有りておのれ後くらりたる
異振く天と等しかりざることをあはれぬが爲り載る

○今本綿を曲天二丈六尺寸ありて代積三費三百文にして
異振天壹尺の代積何程と同

答異振天壹尺の代積百八十八文

初又田二費三百文とを是れ九六とくわひて百六十八文とす
是を二丈六尺寸より取り是を壹尺に寸すけ異振天壹尺の代
積百四十八文とあるなり

○今袖一疋の重目百八十目糸目五十目付振六十五目重目
ありて代積何程と同

答一疋の代積貳百三十四文

初而百八十目と重六十五目とのち五十目を別一疋の
代積せしむ

○今一疋貳丈五尺の本縁銀廿六目下ありとの因壹尺の代積
何程と同

答壹尺の代積貳〇八重

初と田廿六目貳トありしと重目とくけてあるは是なりとす

○今①②③④のち人こく袖を買ひて四百七十八疋半あるに
⑤のち人出は振十費〇八百⑥のち人出は振六費九百⑦
のち人出は振二費七十八目各とあり袖何程と同
答①のち人貳百十疋

③ 有人而之十八寸
④ 有人而之七寸

佛の四各出以復合せく武十三費七百七十又女均是せりて
宜面七十又寸をさう二重せりて子とけ是は④十又。又而
同せりて⑤有人を分とけ又子⑥の六費九十四とてのさう
⑦の有人の分とけ又子⑧の六又二百七十八分とてのさう
の有人の分とけ

○今緒一及二寸六尺の代帳九十七又五寸下ゆりく緒五尺八
尺六寸の代帳何程と同

答帳六十三又七寸八重

佛の四各出以復合せく武十三費七百七十又女均是せりて
宜面七十又寸をさう二重せりて子とけ是は④十又。又而
同せりて⑤有人を分とけ又子⑥の六費九十四とてのさう
⑦の有人の分とけ又子⑧の六又二百七十八分とてのさう
の有人の分とけ

○今席ありめん五尺の七又五寸とてをさう又五尺五寸の代帳
何程と同

答帳百十一又五寸トハリレ

佛の四各出以復合せく武十三費七百七十又女均是せりて
宜面七十又寸をさう二重せりて子とけ是は④十又。又而
同せりて⑤有人を分とけ又子⑥の六費九十四とてのさう
⑦の有人の分とけ又子⑧の六又二百七十八分とてのさう
の有人の分とけ

○今善尺帳尺の緒冥呂五尺七寸の代り小善尺五尺六寸の
本帳とあるは何程と同

答幣り本帳五尺五寸

佛の四各出以復合せく武十三費七百七十又女均是せりて
宜面七十又寸をさう二重せりて子とけ是は④十又。又而
同せりて⑤有人を分とけ又子⑥の六費九十四とてのさう
⑦の有人の分とけ又子⑧の六又二百七十八分とてのさう
の有人の分とけ

○今天帳書紙と幅善尺長尺の代九十六又五寸の幅善尺五寸

長三尺二寸みまの代帳何種と同

答帳式百二十四文

御二四前の帳を尺一前の長式八をとり二とすると法と法後のを
差入五寸一尺長三尺二寸みまをとりけり番二千八文と取を法とを
後の代式百二十四文と知るべし

○古子帳連打算の事

○ぬのこまの羽織をツありせまをウ合せく、ウと代帳九十文
に買十の同ぬのこまをツありの指買ぬやましく、ウありよりぬのこ
田食下直、元買ると此各事ウありと、まゝぬのこ何種相あり
何れとあらせ何れとよあはるは同

あはせ女四文

答四 七あり女八文

ぬのこ軍十式文

御ふ田をありありせのこがひ田文に二とをかりて八文と取は
相織ぬのこみたがひ指買ぬをとりて式十文と取代帳九十四文
の同を引掛て軍十式文とぬのこをありありせの三ツ割のあり世
の代と取あり

又云ぬのこをありのこがひ十文ぬふ二とをかりて六文は二羽織
とありせのこがひ田文とをとりて式十八文と取代帳九十四文と知
百廿六文とありと三ツに三とぬのこの代軍十式文と知るべし

○今取兵やん二とをかりて代帳百七十八文田下二取差よりふやんの
廿八文田下十文ありとよあはるは各代何種と同

答 帳百〇文田下
ふやん 帳七十六文

百二十一

百二十一

御小田二日代後百七十八女口ト一遠女八女口トとらへて式百。六
女八分と取をよぎふとんの二ツりてより一よぎの代百。と云ふ
とある

又田二日の代百七十八女口の内遠ひ女八女口ト引繰て百六十
女と二ツりてよぎふとんの代七十八女とある

○今古多百あ千を代報に費百八十六女あ費ゆと死内上五十中又
十下五十あり上より中内二よりあすく中より下内二よりあす
上中下の代者何程と問

上 三より二百五十目

卷中 三より八十目

下 七より五十六目

御小田一と垂上の法と一又一と垂内二より引の法八とある

中の法と一中の法八と垂内二より引の法七とありて又十六と
あると下の法と一上中下合せく二二六と取と法と一惣代
報と費百八十六女とよぎふ上の代三の二百五十目と取は八とあ
る是が中の代三の八十目と取は七とありて又下の代七の六十
六女とある

○之人仲留りて其のたがはるる百六十を代報十二費八百
目あ費ふ内を人の報に費五百五十女と出へる人の内百六十目
と出へる人の五費七百五十女と出へる時あわく一人あより其の數
何程つと問

二の費百五十女あす人 百五十

答 四の六百女あす人 二 百

五の七百六十女あす人 二百六十

御三のまゝの出しまつて二百八十枚の古子六百より惣代報
十二ノ八百目より二百八十とある又まゝ人の出しつて二百
目ある二百よりなり惣代報十二ノ八百目より二百と欲
又五百七十ノ十目ある六百とあるなり惣代報より二百
古子二百六十とあるなり

○今三十式を四下の古子より別つてれ付る所の何程より
欲と同

答四二十六枚あり

御三の二十式を四下と九より別つて二十六枚と欲

○二十式を四下の古子より別つてれ付る所の何程と同

答四二十六枚あり

御三の二十四式を四下と九五より別つてあるなり

○今報六百九十六枚の古子より別つて歩つてれ付る所の
何程と同

答八百目あり

御三の四十枚と重を別つて引八枚と下あるを法と一六面
九十六枚とあるなり

○歩つて二百廿六枚を二より引て正味何程と同

答四六十六枚あり

御三の十枚と重を二より引正味八枚と欲を歩つて二四
廿六枚より正味六十六枚とあるなり

○的の中りと和の事

○今五段の漢地五八十は凡的の中りの地五二十四箇之
是何分の何とぞと問

答 八分のありと

佛小四八十箇を以て六十箇をとり八分のありとある

○今的の中り地五九十六箇あり六分のありに
慈玉穀何程と問

答 百六十箇

佛小四六分を以て九十六箇を割數とある

○今揚子産稻三十斗入りて六分のありのあり
何分あると問

答 あり矣女也

佛小四丈敷三十斗を以て七分とある

○糸綿麻苧 長實とあり

今長實の糸綿麻七斗ありて積糸軍四目三分九厘の
代程何程と問

答 代程六十或九十八厘五毫糸

佛小積糸軍四目三分九厘を以て糸目七斗あり
代程とある

○今きぬ糸より目九段の代十積ありて是目二百十文
目の代程何程と問

答 四百文十文

御出目は目と百十八文目とを並べ代式十種二十目とあり
十式目とありと二百十八文目(うらまは)の七目八目とあり是を
并のうら目九目をそとせ六目百式十目とありと

○今金をあるとめん糸四百式十九ぬ勢よりて種百文よ
本種糸何程と同
但友智種八文二百平二文

答五文目まき四り八毛

御出目智種八文二百三十二文と並百文以上宣法九六種
子八文と股と法と法種百文の丁種九十六文をある
金をあるとめん糸四百平九ぬとあり軍まの百八十四文
とあり是を法の八文をそより種百文のとめん糸五ぬま
四百八毛とあり

○今金種に付九費六百目と本のより種十種付金百八十
ある時又本の代金何程と同
答又本の代金二十両
御出目百八十ぬとあり又本のよりをそ二十ぬと割又本の
代金二十ぬとあり

○今金種十式目八二本のより種十種に付種百八十ぬと
の時種相場六十目ありと種百目の代種何程と同

答種百目の代種五ぬ
御出目百八十ぬとあり六十六ぬとあり付実と別と十式費目
とあり十種をのより倍よりて収く実をより百目の代
金五ぬとあり

但し金種九費六百目八二本と大和よりること以此

巻終十式ノ用八二本と箱圓ノリトシトス

○今巻終九費五百目二本のくりりて十法の代金百九十支
智以して金巻支のくりりて何程と問

答金巻支のくりりて金ノ五百目

御ノ口巻支の入九費五百目とある三十本と云ふ二而八十五
ノ目とある是と十法の代金百九十支と云ふり金巻支の
目と云ふ五百目と知るべし

○今金巻田ノ系綿七百八十目替りて丁後百文ノ系と云
何程と問

答百文ノ付系綿七百八十目

御ノ口金巻支の系と云ふ七百八十目を重支替後丁後十文と云

割七文目八分と知るなり

○今九六銭百文ノ付と云ふ十八文目五分智の因重半八支
後何程と問

答綿八文目と下二重み毛

御ノ口後口百四十八文と云ふ十文以下定法九分又重みと云ふり
重五十文と云ふ是一銭百文の後十八文目五分と云ふの糸綿
八文目と下二リとみ毛と知るべし

○今九六銭百文ノ綿十六文目より七綿百八十文目ノ代
後何程と問

答代銭三費六百五十文

御ノ口綿五百八十四文目重後百文ノ綿十六文目と云ふり

後ニ費六百五十文と十文以下一室法九六七の多少代錢之ノ六百
四十八文とある也

○今金を取小共銀百四十文用替にして後百文之共銀何
程と同 但お替錢省錢八費文

答百文之付共銀壹文用貳分又リレ

○御之曰金取の共銀百四十文用と並八費文よりより百文
の共銀壹文貳ト又リレとある也

○實銀のりりて賣買さる用

○御取用二百廿用より九分六厘のりりてより九分目之百目
を計より何程とあると同

答壹文貳ト二リレ七毛

御之曰二百目小九分とありて二百貳十文とあるなり

○之百目を計りて共銀貳トのりりて二百貳十目を計り
て何程と同

答八分八厘也

○御之曰二百廿目小共銀貳分とありて二百目とあり八分
八リレとある也

○實之りて金取の目十二之六百目計りて共と二百目を計
りて何程と同

答一兩二分也

○御之曰十貳之六百目と二百目とありてあり

百廿六

百七十七

○實り三百目一付あり三十三付あり也と或百或十目を
行ありて何程と同

答四十二行

湖四三十三行三百目を九の九百目と成と二百廿
目ゆてりあり

○是付付六食分の湖三十三行入を中代何程と同

答百九十八食

湖の百三十三行の六食をわたり

○實り三十三行入百八十食五トありのと此の是行付
何程と同

答五食五分

湖の湖百八十食五分を別記三十三行とては五分を
行の代五分五分とあり

○是付付五分五分の湖を中代何程と同

答二十八行

湖の六食分の代銀二百八食と並を中代五分五分
あり別二十八行とあり

○是付付六食分の湖を中代何程と同

答七費目

湖の四つりつと八十食を六食ありとあり

百七十八

○今より三の二百廿月廿十式ノ目入のまうて何本と成る
そと同

答廿五本

御二四の二百廿月と廿五本の月十二の月とて三と

○今より三の廿六本ノ付帳目二百廿月廿五本ノ付帳目
入ると同

答十式ノ目入

御二四の廿五本の月と廿六本の月とて三と

○今より三の廿八本ノ付帳目六十八本との付帳目六十五本の相場
して一本の代帳何程と同

御一廿五本の月入

答帳四本。八重

御二四の廿八本と廿九本とて三と六十八本とて三と
月とて三と四本。八りとて三と

○今より三の廿五本の付帳目三十四本の付帳目六十月より
廿五本の付帳目何程と同

答廿五本

御二四の廿七本と廿八本とて三と八本と廿九本とて三と
廿五本の付帳目何程と同

○今より三の廿五本の付帳目三十四本の付帳目六十月より
廿五本の付帳目何程と同

答廿五本

御^レ日^ニ下^ル二^百目^ノと^重金^量口^ノの^字を^費三^百目^と
より代^金と^爲る

○今^金量^少の^麻草^を費^六百^六十^二文^目留^めて^積七^十
文^目留^めと^同 借^入者^積八^百三^百二^十文

答^十文^目九^十九^リと^同

御^レ云^ふ借^入積^八百^三十^二文^と重^金量^口の^字を^費三^百目^と是^法九^六を
う^けて^法と^同今^金量^少の^字を^費三^百六^十六^目と^重積^七十^二文^とを
百^十五^十九^百九^十五^文目^とと^成是^を屋^とく^りて^取引^き

○借^入毎^月と^應下^ル七^利算^用

之^分の^利を^て元^報百^七千^六百^の一^十四^月の^利算^の
何^程と^同

答^報七^十二^百五^十分

御^レ云^ふ元^報百^七十^五分^の利^算を^のも^つて^報五^百二^十分^を
毛^と成^是一^十四^月と^成は^るなり

○元^報百^七十^五分^の利^算を^のも^つて^十一^月の^利算^を四
答^報七^十七^分

御^レ云^ふ元^報百^七十^五分^の利^算を^のも^つて^七分^と成^ること^を
十^一月^の利^算と^同

○元^報百^七十^五分^の利^算を^のも^つて^十一^月の^利算^を四
何^程と^同

答^元利^報百^七十^五分^と同

御^レ云^ふ元^報百^七十^五分^の利^算を^のも^つて^十一^月の^利算^を四

百廿九

みかち取と進へ百七十五文とくひて去る

○利息二歩より十ヶ月うへ元利合七三百目五附ハこの
元振何程と同

答 振二百五十文

御と云元振十文と進是又二分の利振或は去る十文
金と取を法とく元利三百目と別る

○二歩より十ヶ月うへ元利合七三百目五附ハ利合けり
ハ何程と同

答 振六十目あり

御と云三百目小武歩せり之百六十目と取別ハ元十文又二
別と云る十二文と取を法とくたの三百六十文と別る

○三歩より元振三百目より四ヶ月十二日の利振何程と同

答 二十九文六分

御の四十二日と三十日より四ヶ月と取と進は四ヶ月より
四日と取別又三百目は三歩と云れば九文と取と進は五文の
四日と云るあり

○三歩より元振三百目より五ヶ月の利振何程と同
答 三十三文

御の四利振何程五文と進は五歩より五ヶ月と取と進は五文あり

○三歩より元利合三十文四ヶ月分と元利合ハこの元
振何程と同

百三十

百三十一

答銀二百五十目

御小田二百四十ヶ月を、のち十式とある是より二十文を
引去れば二百五十文とある是

○元銀三百目の一ヶ月の利息七十式文は、何れに
小高と向

答は利銀三歩あり

御小田二百目ハ八ヶ月を、のち二ノ四百目と成る是より
七十式文を引去れば三歩とある

○銀五百目の一ヶ月の利息合せて六百六十を、
何れに利銀三歩あり

答は歩半とある

但し二年目ハ利又利を加ふ

御小田二百六十を、
引去れば一歩半の利とある是

○銀五百目の一ヶ月の利息合せて六百六十を、
何れに利銀三歩あり

答は歩半とある

御小田の御を、
十二ヶ月は、
何れに利銀三歩あり

○銀五百目の一ヶ月の利息合せて六百六十を、
何れに利銀三歩あり

百三十一

三十一

但二年目分利不引七加ふるあり
佛四一割不先一七加(壹壹又となる)と二返り合一八二〇
八七五とある不先後五百目とくけりあるあり

○銀五百目は(壹々年)より半の利あり(四年)の元利合を
何程と問 答八百七十返五分二厘七毛五あり

但二年目より利不引七加ふるあり

佛四一割不先一七加(壹壹又となる)と二返り合一七四九
○六二五と欲不先後五百目とくけりあるあり
五年目の元利と加ふる右の壹壹又と四返り合六年より
又七返り合六返り合せて又半後七加ふるあり

○銀五百目は(三年)の元利合を七百半目四分三厘七毛五あり

壹々年の利佛不引七加ふるありと問

答 壹割五分あり 但二年目分利七加ふるあり

佛四一割合を七百六十目四分三厘七毛又と先後五百目とく
割は壹五貳〇七八五とある是と問(壹々年)のどけり壹壹又とある
以内先一七ひけり(佛)と二より又分あり

○銀壹拾壹拾の代銀七百目智二百半又拾の代銀七問

答 百八十五又五百目

佛四一割併二百六十八拾と先代銀七百目とそとあるあり

○銀壹拾十ノ目入一拾の代銀七百六十五又智より七銀併貳費
二百八十目の代銀と問 但壹拾壹拾の目入

答 銀貳百貳十七又五十八又七毛八厘

百三十三

御二日纏帯式ノ二百八十目と重二摺の代銀七百六十五文と重
根十八貫武面。七文と重と一摺の八重味八貫目ゆてより代銀
武面或十七文五ト八重七毛又糸と重と云

○纏帯を摺の代銀六百目替ゆて七紙幣五十張は纏帯
何摺と同 但し重摺は味ハ八目入

巻七 纏帯四百八十目

御四紙幣五十張と六十目と重根と十文と重と一摺の八目目
と重け武面軍目と重と一摺の代五百目とゆてより纏帯四百
八十目とある云

○今紙百二十帖の代合武面掛同ハ重四二付何十帖替と云
巻六十帖

御二日合武面とゆて百二十帖とよりとある云

○巻紙を武面掛入代根三百貫帯が買同七枚の代と同
巻七枚の代根十貫武ト

御四二百或十文と重七枚とより二百枚とより云

○半紙一ノの代七十或ありて一帖の代根何摺と同
但紙下ノの二子一枚一束ハ武面一枚ハ二十枚云

巻七 巻紙の代根百二十文 重根丁紙十文

御二四下ノの代七十或ありて重面ゆてより根七十或重と重是二四
の根六十目とより重丁紙面或十文とある云

○英紙紙合巻同と十二帖替の同巻紙の代根と同

普銀五匁

但壹圓銀六十匁

御之四六十月を壹圓紙十二帖を以て一帖を代とある

○素麵十箱、付金十五圓智の厨を箱守の代と同

普金貳圓壹匁

御四十五匁と壹一第才を以て十第を以て其の壹第の代金貳圓と永貳百五十文とあるとあるとある

○今壹第六百把入の素麵代積十二匁五百文の厨を把の代積何積と同
但右智積八匁文
普壹把代十貳文九匁入り

御四十二匁五百文と壹壹法九匁六匁とあり六百把を以て其の代積十貳文九匁入りとあり

○茶壹圓五匁用がめり七八匁用八七匁の代金と同

普金十壹圓ト二十積

御之四茶壹本の内八匁用と七本を以て五十七匁用とある是と金壹圓の茶五匁用とあり金十壹圓ト永貳百文とあり此貳百文ハ六十用とあり六積十匁とある是二十積あり

○茶十二匁用八匁本の代金ハ貳百圓智あり七匁本の代銀さふ程と同
但右壹本の代金貳百圓

普壹本代貳十匁

御之四茶壹本の代銀壹貳百圓と壹壹本の代金貳百圓とあり是と壹本の内八十匁用とあり七匁とあり壹本の代銀貳十匁とあり

支帳二十回をとりてある

○米貳百四十俵の運賃八匁と一七米子三百八十俵の運賃
金何程と同 普金半五匁分
佛の口後の米子三百八十俵と金運ちん八匁とくけ一万十。四
十匁とある米の米貳百四十俵とある

○米子五百石の事運ちん百石に付米廿五石を折ふと
運ちん米何程と同

普運賃三百二十六石

佛の口子五百石と金廿五石とくけ百石とくけ運ちん米三
百二十六石とある

○大坂ゆく合意田に付二年平倉智の米を受て東京
運送米百石に付運賃四石大坂ゆくその米のうち八石は
東京米倉合意田に付何程と同

普東京米倉合意田に付米二年

佛の石と金運賃米四石を加へて。此石と金運賃とを
大坂おゆの米を二年二合とくけ東京米倉おゆをある

○今道徳三里の新人力車下銭貳ノ五百文ゆへ道又里半
の賃物何程と同

普又里半の賃物四費五百八十二文

佛の口三里の賃物貳費五百文と金後の道法五里半とくけ
普の道法三里ゆへとりてある

○今地代合を田六十武坪の割合ありて同は八間実行十
八間の地代合何程と同

普合七支武坪

御二四五間と重十八間とより十武坪ありてより永と重と合と
上其合七支武坪とありてより

○今を坪根六支武坪の地代の間六間ありてより七支の地代
根何程と同 普根武坪六十支。四分

御二四五間と重七間とより十武坪ありてより一又普根の代
六支武坪とより其合武坪六十支。四分とあり

○今坪数四百八十坪五間は二十四間ありてより実行七間と同

普実行二十間

御二四五間八十間と重七間とより八間ありてより実行七間とあり

○表間九間実行二十間の地代合を八間五十坪ありてより
今間は六間実行十六間の地代合何程と同

普合八間七支武坪武坪根六支五分

御二四五間の間は九間ありてより二十間と重八間ありてより法と以
權の間は六間ありてより十六間と重九十六坪と破是代合を
五百五十坪ありてより合十四万八千八百八十坪と破是と法は八十坪と
破を割る合八万七千七百七十坪と永六万五千坪と破は永六万五千坪と
と合を武坪と一破り廿八坪と二十坪とより根六支五分と破

○異業同除

異業と別の際を算するを同除と同下品を算するを

又たこの酒何程の代銀何程ありと又酒何程の代銀と問
との付の直り又の酒何程と直ると異なる品は代銀の
後て代銀と異なる別ち異なる品と問ト又その酒の
よりくその酒の割初因除あり故不尾と異なる酒と
は法を合得するに似る要買貸備此等諸事等をその所
分元ホホあるを踏以別と減するに似る要買貸備此等の
法也

○上酒を年六斗の代銀百斗或女中七酒或斗軍の代
銀何程と問

善代銀或百八十八文

佛との後の酒或斗は并其の代銀百斗或女中七酒の酒
一斗六斗と割は後の代銀と好む

佛との前の酒と後の酒ハ并敷異なることども同品あり

又異なる品ハ代銀より後て後の酒へ異なるの代銀と
同品ありの酒をより後の代銀と好むあり

○今米を石七斗の代銀二百六十文あり七銀或十五文米何程

善米を年七斗八合を夕〇六四

佛との後の代銀廿五文一斗の米を石七斗とを前ハ代銀二百六十文
ありより後の米と好む

佛との前の米と後の米ハ並敷異なることども同品と
又異なる米あり故後の米へ異なる品ハ代銀と好む
の代銀をより後の米と好む

○今道法三厘の所人力車の賃積丁積を百五十文あり七法
七厘半の賃積と問

長弁六天五寸ゆゑなり

○七條四寸ありの如く十二枚あり惣括敷何程と同

景八十八條八分

納之四條十枚枝、五枚の條敷七坪四寸をかるん

○去を俾八百枚十枚之代後五十六枚六寸下の同景前の代と同

景銀四寸八分

納之四景條の代銀五十六枚六寸下の同景條の七百枚をかるん
代銀四寸八分をかるん

○今去而八十條ありの條を四條つゝとてぬつりのほてけとてか
何程景をかるん同 景四十八條

納之四去而八十條を四條をてより條敷をかるん

○今武間之三百の條あり納之をサ武間條の百サ武間半にあり
二條多今同トありさうして二百サ五間の條をの如の百サ
十のサ條の百サ景八天ありの同ハ去何程入と同

景之條武分二二四

納之四條の百サ武間條の百サ武間半にありの如く
右の武間をを九條とあり 納之を二二四とありは武間の百サの如く
ありけとありの百サを武間半とありの如くありの百サを武間半とあり
十の條とあり二の條とあり二十の條とありの如くありの百サを武間半とあり
の如くありの百サを武間半とありの如くありの百サを武間半とありの如くあり
二百サとあり七の條とありの如くありの百サを武間半とありの如くあり
景八天ありの如くありの百サを武間半とありの如くありの百サを武間半とあり

六尺五寸より二十の倍八分四六五とある小分の六二倍とあり六十
七律六分九三とあり法の二十一倍と取てあるあり

○山古七公小徳公二分の文さつりありて山古三律と徳公何律
若き律二系八五七 律二系八五七と百廿番と若き律二系八五七の意
徳と山古三律と七小より四二八五七とあると又二分とこの意
律四分六寸と二分もと違ふ同ト

○尺分と事

○今律密相合く十八あり此代積下給百廿六文之世し律ハ五ツ
と付十文みのんハ一ツと付木文宛各生教と問

若き みのん六ツ代二十六文
律 九ツ代九十文

例の四合数十五と五十文とを百五十と倍する内百廿六文と
引余り或十四文と実と引別二十文の内六文引余四文と取
是を法として取て実とよりみのんの數六ツと倍する合數十五の内
六ツ引余九ツと倍する

○今みのん六ツと律九ツと代積下積百廿六文と實同律より
みのんハ一ツと付四文安し各律の付重取何程と問

若き みのん六ツ代十六文
律 七ツ代十七文

例の四みのん六ツと四文とを百廿六文と取一百廿六文と倍
百五十文と取と實と引別とみのん六ツに律九ツと倍十五と
取と倍する取て實とよりかき重の代積十文と倍する
内四文引とのん重の代十六文と倍する

○今記す帳入書二百目と申し二人小是をから甲の五帳乙の
五帳より七目より一甲乙五帳各何程と問

答 甲五帳二百五十目
乙五帳二百五十目

御白惣帳五冊六百目と申すは後七百目と加へ人数式入るる割
甲の五帳と申すは内先帳七百目を引余乙の五帳と申す

○盈胸まみ

○今入集りを黒石の養石と申す者中数及人数を知らば其人
毎に黒石五ツ宛をたは二ツ余る又其人毎に白石八ツつを黒石五ツ
余る但し黒石より白石八ツ多しと云人数及黒石養石数を問

答 人数五人
白石廿七個
白石廿五個

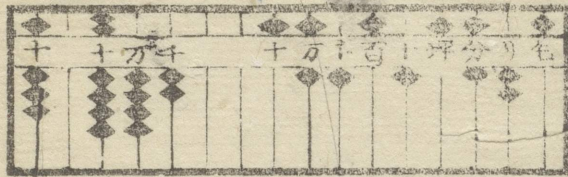
御白後をから八ツの内先をから五ツと引残り三ツと法と
先の余り二ツと法と十八と加へ内後余る五ツと引残り十五と
法と法の二ツとより人負五人と申す先は余る五ツと法と先の
余り二ツと法と黒石の数をからるる黒石十八と加へ白石の数をからる

○大抵方仲方めて入れと法と但し仲方の人数を知らば何程と
問と申すは内先の内先人数は後七十女と出せば五十目より八十目と
出せば六十目余ると云人数及帳入を問

答 人数十五人
帳入百五十目

御白内余る百目と申すは黒石五目と加へて百五十目と帳入は後の
内より八十目の内先の内先七目と引七目と引七目と引七目と引七目と
百五十女と申すは内先十八人と申す十五人、七十女と申すは
五十女と帳入をからるる五十目加へて帳入百五十目と申す

左 照 右



積五十六万五千五百十五坪六分二厘五毛也

里方六面ありて八十二町五丁

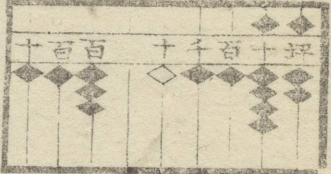
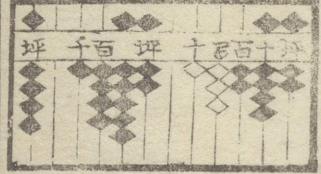
法りりおれ一〇十〇〇百と位るるとれ而り
 あるはれきの位よりおれにありを以て左
 の八十間とおれあり合せ八六〇〇間
 八十間をからしむるは十を万式子坪と
 是る坪づりりて減トムと一八十間と
 是る坪のたおれを破算す八十間の下
 のころて四百九千五百十六坪六分二厘

次の表にあり

左 照 右

奇 不 奇 奇

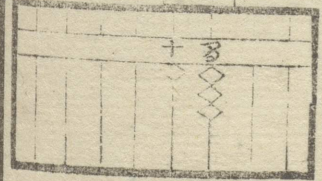
大方 目安 大方 減



上は五六千のどくはれ還て又十間とおれま
 本大うの十間お同一の百坪と成是二
 かるるは二百坪と成是と同安ありての
 上は五六千のどくはれ又三厘五
 のころて二百九十七坪ありはれ
 破算す又次の表にあり

大方の次は後のまはるると二の九坪と損
 還てたの意又はれは大方のどく
 十間と成是は五六千のどくはれ
 ると成又次は二の百を和へ三十三
 これの九坪と成は二の百九十七坪と
 成是と別強ま坪は二の百九十七坪と成

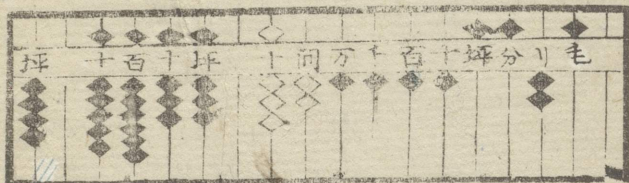
正



二百四十一

左股右九六八

大方 残り



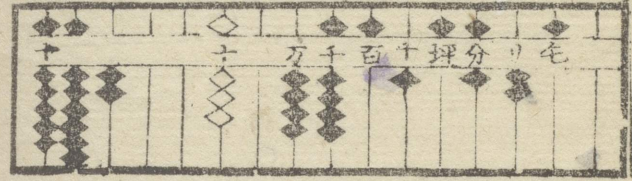
大方の決り後立二万と二二四坪とより決り
ありを以て左におれぬより決り右に大方の
八十とあきをはし二角とくは二角四十
間とある又つたの二万を加えく二百四十二
万ありとをはし九の四坪とくは九百六十
八坪とれりと二万の二角小角決り刻のと
は坪で引たり八十万のつたふのとく
一萬百四十七坪六分二厘八毛

次の芳あり

百五十

目安 一九二

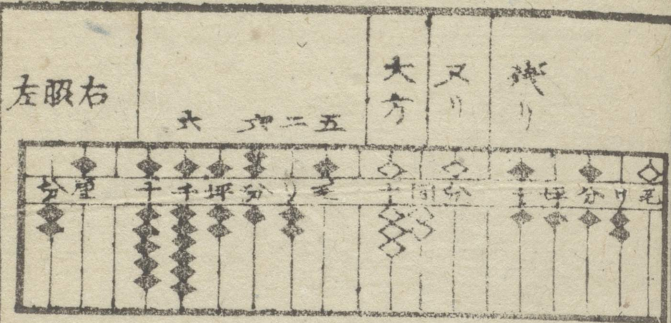
大方 残り



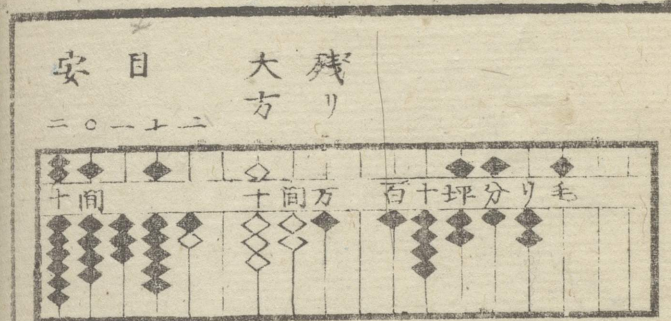
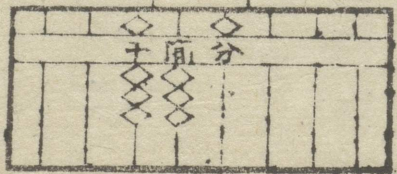
上のおり大方はとく くれぬ又八十万と
あはれをはし大方の八十間とくは六六四と破
をはし二万とあきをはし一九二とあるとをはし
目安はくくのとく坪とをきく下よりとく
はし大方八十万つたふ又二万と決りのと
ましく一万百四十七坪六分二厘ありと決り
目安はくくと破算ま

又次の芳あり

百四十九



上は八十二の次は清する也
 五五二分入りしはさふありぞい
 九に垂又つはさふよきとに五十八
 二るせめはをさふ三とふゆ又つさの
 才るせめと二二百四十六百すあり
 二色あ丸の二か入りしとさふれ
 ば六十を坪六人盛りし又先と
 たると色と才だんの二角と
 小角に下あのをさふ坪を引とる
 正八十二百すといゆるあり



上は八十二百すまふとらふありぞい
 八十二百とあは上は八十二百とさふ合六と
 四とあるとれふ二方とさふ二載一七二と成
 と色を固安にさふのさふ坪を下の三割
 八十二百の次は又才るさふのさふと
 一坪六二五ありさふの固安にさふ破さん
 又次のさふせり

今道法三里の新入力車を越えの貸銭九百五十文と七道法十二里の貸銭と同

昔道法十二里貸銭七ノ八百文

例四後道法十二里一帯の貸銭九百五十文と昔道の差法三里を越えり後の貸銭と同

比例式と得るより先帯の及法三里を上級一

並その下級一帯の貸銭九百五十文と重又後の差法十二里と上級一並その下級と後の貸銭の級とあり昔法の如く是を別と

今金壹圓に付利息五厘日守りて或は五厘下り

元金と同 昔金四百五十圓

例四金壹圓に付利息五厘日守りて或は五厘下り

式例比	道法級	貸銭級
	前道法三里	新賃九百五十
	後道法十二里	後賃七ノ八百

式例比	利級	元級
	利銀五厘	元金壹圓
	利銀五厘	元金

比例式と得るより先利銀五厘と上級一並その下一先金壹圓と並又利銀五厘五下と上級一並その下一先金と並あり

金壹圓に付二十日銀九トの利息を銀五厘の利息は元金何程

昔元金四百五十圓

例四金壹圓に付利息四厘五文と一帯の利息は元金何程

式例比	利級	元級
	利銀九分	金壹圓
	利銀四厘五	元金

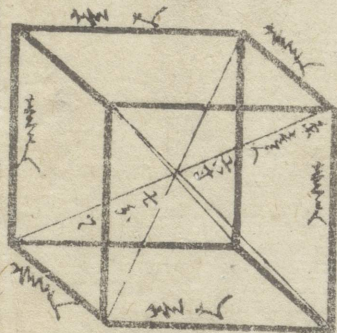
今上酒三升の代銀と下酒五升の代銀と各お等し今上酒一斗三升五合と取て下酒を換んと取て下酒

何程同 昔下酒一斗二升五合

例四後上酒一斗二升五合一帯の下酒五斗と昔前の上酒三升と下酒を換ると

式例比	上酒級	下酒級
	前上酒三升	前下酒五斗
	后上酒一斗二升五合	后下酒

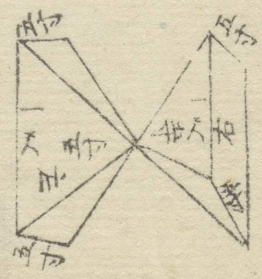
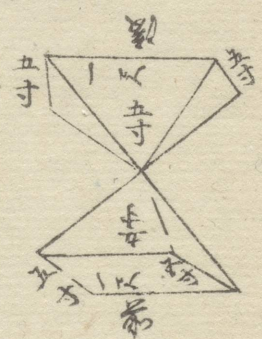
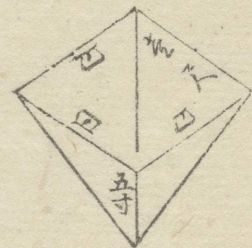
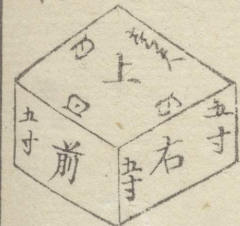
明鏡圖



○明鏡の横をぬらふとあるが、かくのまゝ
 小ちを紙本せりてあんでんのだまのど
 こくまゝ六面より上や下をぬらふとあるが、
 まゝ六寸七寸どぬの心下四角に張
 るる同書申はく、字をぬの糸は合
 せりてありとありて明鏡一ツあること
 ありとありとあり

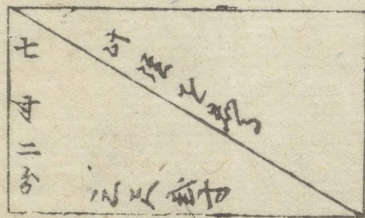
別の口を八寸五分、高五寸、横五寸、深五寸、
 一ツ分の深知の心、是より起るあり、又口の深さを、
 合を直下深さを倍して、横六寸、高五寸、深五寸、
 法のありあり、又口の深さを合深さを、
 横五寸、高五寸、深五寸、
 横五寸、高五寸、深五寸、

海鏡の二合の図



○海鏡の法、口の起りのまゝ、八寸五分、高五寸、
 海鏡、横六寸、高五寸、深五寸、
 合同、高八寸、高六寸、高五寸、
 是と海鏡の深五寸、高五寸、深五寸、

同八寸五分、高五寸、深五寸、
 又の二角六寸、高五寸、深五寸、



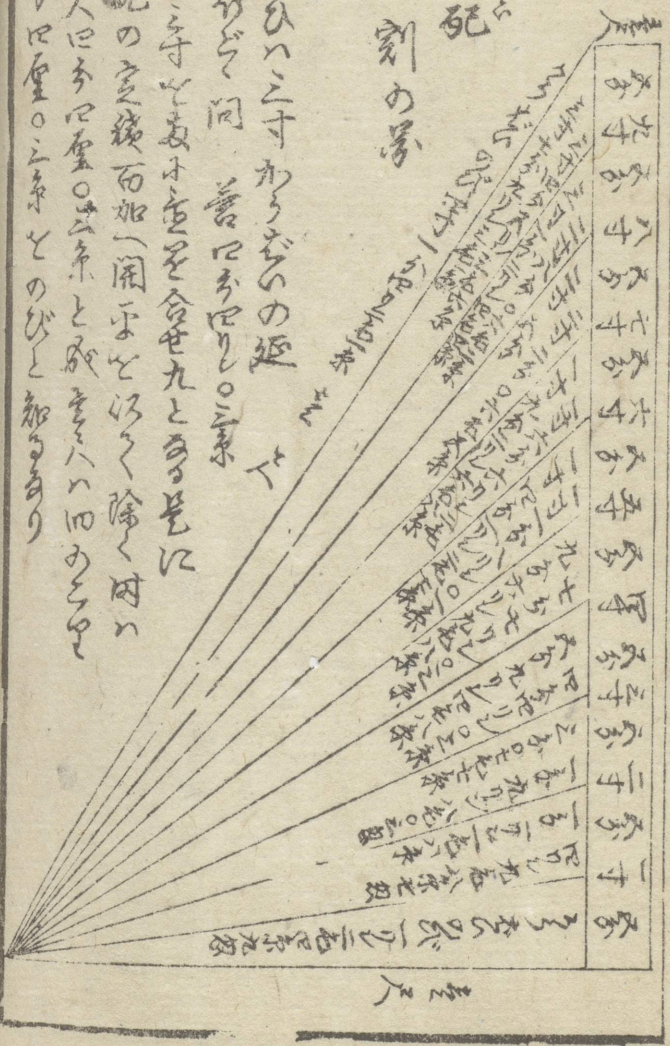
右の圖五寸五分を大生かのより付る佛とて同せんたり
たゞの何寸何分何厘かノ事とのりをも罷ちそ是をまぬ
重なり合せ様よりり相定法面を如く同平を以て除く時
四寸五分の如くを大減ト稱りとのりとも知るなり

此法の長廿何程と同
善之入武寸八分
佛の四七寸五分を右を重なり合せて五寸
八分と成又三人武寸を重なり合せて一〇二分
と成を双方を互ひて一五二分と成是を罷至
を以て除法の長と知るなり

句配

割の法

あるは二寸かろむの延
何れぞ同 善之入四寸五分
佛の二寸を表し重なり合せ九と多き是に
句配の定後而如く開平を以て除く時
善之入は四寸五分と成善之入は四寸五分
は四寸五分の如くと知るなり

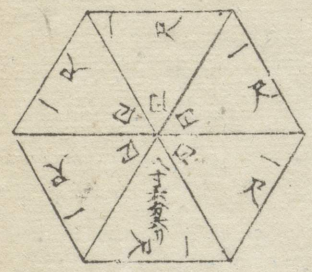


百五十七

善て四子にあらはれ算法ふらうとあるあり 御の面を八と
 左のよおれをあらせ寸源百あり又まき人ニツふらう五寸とあ
 ぶおれけ合二十五坪あり 色と右面坪の内減トあふ七十
 五坪ありこれを開ふとわらうと色ハ八寸六分六厘〇二系
 とある下の二系ハさうくくハ六六を解く法とまき色ハふらう
 四二の法ありわらうあり本積ハ四二〇一あり又二角のまき
 より(ま)のまきをそのゆらけ合一七二を解く割坪敷を知る
 りハ面を八の二角のすまらう平一八寸六分六厘と左の
 おれを合せる坪坪七十四九九五六と色と本積ハ二二とわらう
 二二ハ一七二と色ハ(ま)よりわらうあり

六角の法の本

を寸四方の積ふと百四十八坪ありと色と六角ゆらうと一方の面



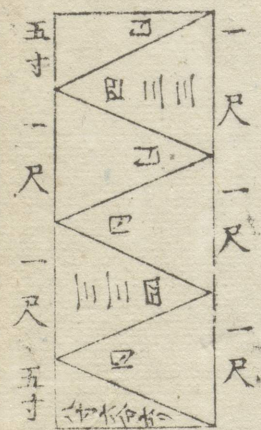
何程の小敷と問

答まき五寸敷ると云

御の四積定法二五九八と収てさう色を開平
 とりつゝ除定法ハ六角の面ありと云

此六角の積敷積る時の面を八五寸と左の
 色け合定法二五九八と色ハ(ま)より二百四十五坪
 五分とあるあり

○六角の法二六九分

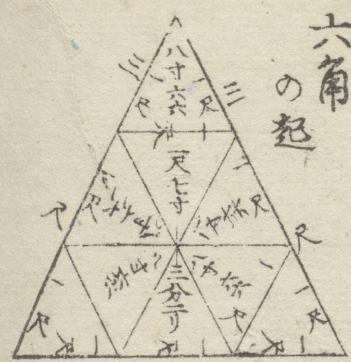


りの面を八の
 六角一吋四方の
 積二百五十九坪
 八と色ハ(ま)の
 りより答と云

後二百五十九八毫定法之 法と求ゆ六角の面を大を付ハ平定
 後を大七寸五分ニリシは毫と二ツハ平定ハ申遊八寸五分六リ
 五毫小面を大と二ツハ割て五寸と五分六リと之と成毫六方と
 とる因二五九八と成毫六方定法也

六角

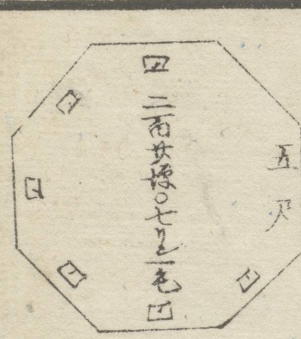
の起



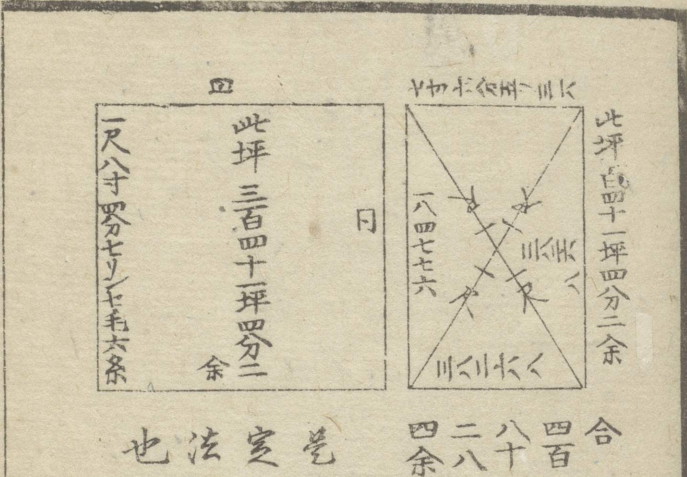
六角の面を大を付ハ平定ハ申遊八寸五分六リ
 五と初る寸五分六リを大六角の起ハ面三
 尺の三角の面を大の六角とを付ハ三角の二
 角小又面を大の二ツづと二ツ割りと又六角の
 面付ハ大ハ六六とを付ハ六角の中を大ハ二尺
 五寸五分八毫五リ内角と割る六角一ツの立
 八寸五分六リと引ハ割て大七寸五分六リ
 毫六角平とよとの程なり
 但六角六合六角と成又大の中ハ六角起法も

八角法の事

大天四方の積或百或十條の七リ一毛と八角ありて一方の面何程
 小積と問
 答五尺寸五分六リ
 解の積或百或十條の七リ一毛と無定法に八二八四と成て
 是と問答と成法は面五尺と成る
 答八角の積或百或十條の七リ一毛と無定法に八二八四と成て
 此八二八四と成るは積或百或十條の七リ一毛と無定法なり



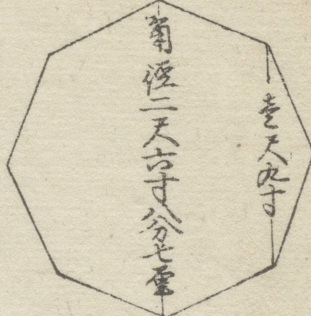
○八角一側あり毫小一寸四方の積何程と問
 答五百十條の又之と成
 八角の積何程と問の寸と成て大の積何程と問
 て子あり大小とも成あり
 解の四角の角の徑二尺六寸八分七リと成積一尺



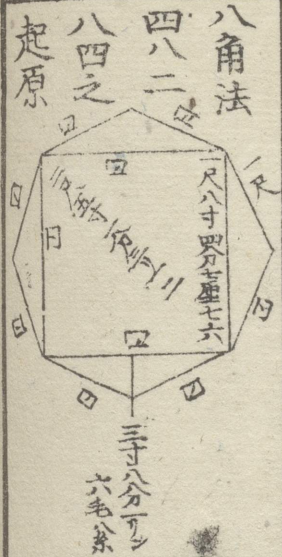
合四百二十八余
也法定是

八角とあるは一尺四方の角のうち
の伏四寸を分四リと二毛一糸とあるは
二ツ小割バニ寸。セリと一毛。五忽ツあり
是と自算して四二八九二四八。二五とある
又是と二ツ小割五寸と自算して廿八
六とあるは廿九二八九二四八。二五あり
是と園字とありて除之何八角の面又
寸四分一リ一毛九糸五とあるは
又法あるは是と定法をお意——とく
面壹尺の八角と法あるはなりと定
法と出たは是と考べし

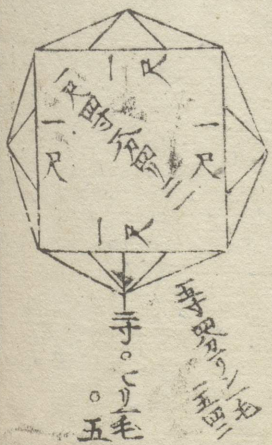
二百六十三



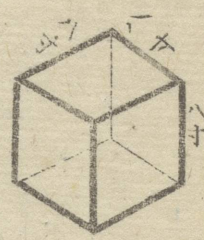
九寸とあるは被敷とあるは
宮八角のまきの徑或天六寸八分七リとあるは
合二尺二寸二と以此割るも同様と法定法に
又平より平の徑自算して後二。七一とあるは
同ト八角の面二尺二寸二とあるは平と平との
徑りとあるは同面二尺二寸二とあるは八角と角
との徑りあるはあり



起之角八



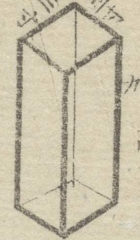
二百六十二



今立方あり面八寸積何程と問

答積千二百八十坪

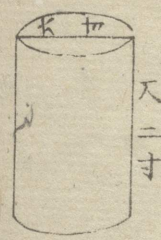
御之云面八寸とを合又面八寸とをを積とゆえ



今是の如く方面三寸高九寸積何程と問

答積八丁壹坪

御之云方面六寸とを合高九寸とを積とゆえ



今是の如くの高六寸とを合高九寸とを積何程と問

答積二百二十九坪或九リシ式毛八系

御之云高六寸とを合高九寸とを又七八五坪と云ふ



今是の如くあり径七寸高三寸積何程と問

答面六丁七坪。二重八毛四系

御之云径七寸とを合高三寸とを又積率多きせをリツ七八五坪と云ふより積とゆえ

今方雅あり方面九寸高九寸積何程と問

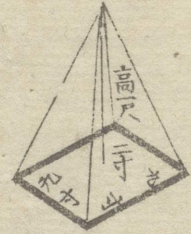
答之面二十八坪

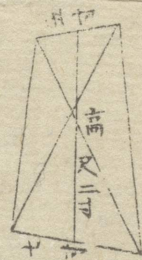
御之云面九寸とを合又高九寸とを之にて割之

今果之くは物上径寸下径七寸高五寸積何程

答四百三十坪。二重四毛式系三一

御之云上径寸下径七寸とを別と上径寸下径寸とを合内別と重敷と列めらる八五寸とを合七
分八五坪と云ふより積とゆえ





今高ありし双五寸下双七寸より一尺寸積と問

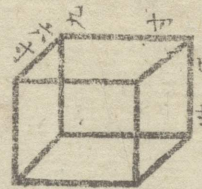
答積七十坪

柳之長五寸下双七寸より又高五尺二寸と
うけ定法六より積とゆへ

今如いりの長九寸平六寸より七寸積何程と問

答二百七十八坪

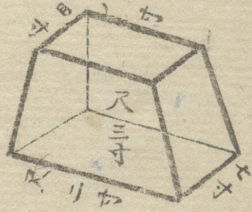
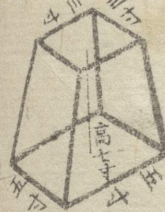
柳之長九寸平六寸とを又高七寸とを積とゆ



今方蓋有上方面一守下方面五寸より七寸積と問

答百十四坪六分六厘

柳四上方面一守下方面五寸とを又上方面一守下方面一
寸とを合内別とを積とゆゆり七寸とより積とゆ



今直あり上長八寸上平一守下長五尺二寸下の一
七寸より一尺寸積何程と問

答積七百九十二坪

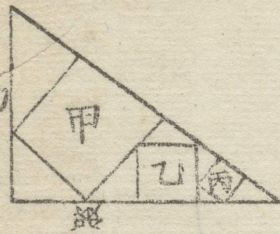
柳四長八寸と倍して下長二寸を加上の平一守と
を又上平一守と長二寸と倍して上長八寸を加下の平
七寸とを別とを積とゆゆり一尺寸とを定法の六
より積とゆゆり

今高の五寸の柳あり高五尺八寸守積何程と問

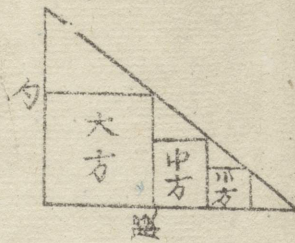
答四十七坪五分四厘

柳之長五尺八寸とを合内定法七を五りにゆゆり
一尺二寸とを合内定法七を五りにゆゆり又五
二六より積とゆゆり

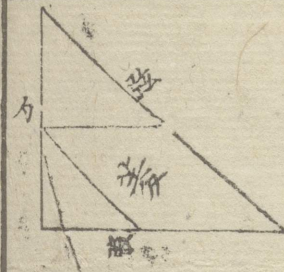




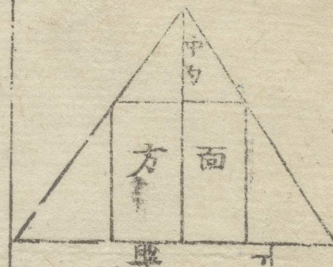
今勾股の内、景の如く甲日丙三方を合する有り乙
 方面四寸丙方面二寸甲方面何程と問
 答甲方面八寸
 解、日乙方面と勾合丙方面とより甲方面
 八寸とゆふ



今勾股の内、景の如く大中小の三方を合する大方
 面壹丈申方面七寸小方面何程と問
 答小方面四寸九寸
 解、日申方面とを合大方面とより小方面
 四寸九寸とゆふ



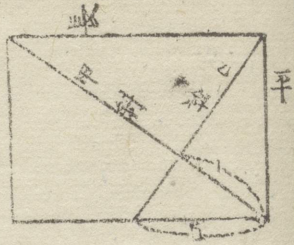
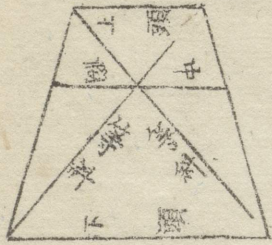
今勾股の内、景と入りあり股日五寸五寸大面
 何程と問
 答、日五寸五寸
 解、日五寸五寸と法と加へ法と日股とを法とより
 法とより大面日五寸とゆふ



今壹の角一方と合する下斜、日五寸中勾と大
 面何程と問
 答、日方面壹丈四寸
 解、日下斜と中勾と加へ法と日又下斜と中勾
 と掛法とより大面日壹丈四寸とゆふ

百六十一

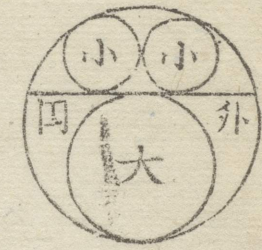
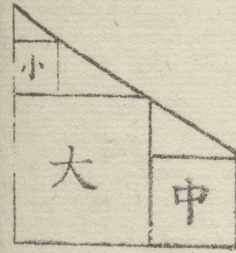
百六十一



今梯の内、二等斜を強け、上下の二箇を
 画く有り、上段六寸、下段壹人二寸、中調を問
 答、中調八寸
 他、上段と下段を加法と、上段と下段を
 倍し、法を以て、中調を問

今直の内、甲乙二斜と入る、有長、甲斜六寸
 口壹寸、イ何程、問
 答、壹寸、或下
 他、口長と壹口を加法と、以甲斜と壹口と、け
 法を以て、イを問

百六十八



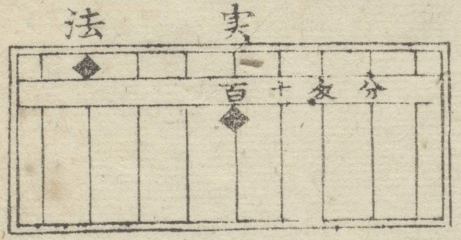
今半梯の内、小大、中、小の三方を、入る、有、中方面
 四寸、小方面三寸、大方面何程、と問
 答、
 他、中方面と、小方面を加へて、大方面七
 寸と、問

今、円の内、弦と、ふ、大、四、一、つ、小、四、二、つ、入る、あり
 大、四、径、八、寸、小、四、径、六、寸、外、四、径、を、問
 答、外、四、径、壹、尺、五、寸、壹、分、或、壹、尺、五、寸
 他、小、四、径、と、壹、寸、を、合、大、四、径、八、寸、以、て、大
 大、四、径、と、小、四、径、を、加、外、四、径、を、問

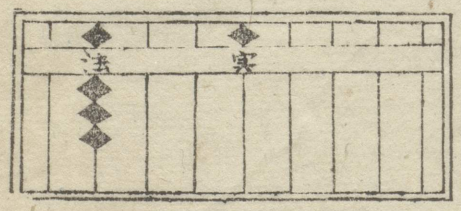
百六十七

ありて二五の目ありて七五の目ありて八の八を
 かけ二五の目ありて八の八を掛け七五の目ありて八の八を
 八を掛けるとあるべし又十七半ありて八の八を掛け七とある
 ありて九とあるべしとあるべし七五とあるの目あり又七
 五と二七五とありありとあり一四〇六二五とあると色と同安
 ありて九の八と二五の目ありて二五の目ありと二と二と二
 九とあるの目あり二五の目あり九とあるの目ありとありとあり
 まゝありてたると五と六と四とありて二と二とありて九の
 八と二とありて九の八と五とありて五と二とありて二とあり
 のと二とありて九の八と五とありて二とありて二とありて二と
 ありて二とありて九の八と五とありて二とありて二とありて二と

帳百目十六と子同五とを八と割か
 帳六分式ト五分ト成



五とあるべし
 一五ヶ五



八四天作五
 八二加下四
 八五六十二
 八である

百七十一

日壹文倍増之事

朔日	壹文	二日	貳文
三日	参文	四日	肆文
五日	伍文	六日	陆文
七日	柒文	八日	捌文
九日	玖文	十日	十文
十一日	十一文	十二日	十二文
十三日	十三文	十四日	十四文
十五日	十五文	十六日	十六文
十七日	十七文	十八日	十八文
十九日	十九文	二十日	二十文
		廿一日	廿一文
		廿二日	廿二文
		廿三日	廿三文
		廿四日	廿四文
		廿五日	廿五文
		廿六日	廿六文
		廿七日	廿七文
		廿八日	廿八文
		廿九日	廿九文
		三十日	三十文

廿一日	千五百七十二	八百六十四文	廿二日	二千四百一十八	七百二十八文
廿三日	六百一十八	四百六十六文	廿四日	一千二百八十八	六百一十二文
廿五日	二百六十八	二百六十八文	廿六日	五百三十八	四百六十八文
廿七日	十万	十万六十八	廿八日	二万	二万六十八
廿九日	四十万	四十万六十八	三十日	八十万	八十万六十八
					六十八文
					百十八文

五本の回数数を倍増之事

五本の回数数を倍増する事は左の果の如く内録の本巻と名をかりてさへそれより本りとまうるを長考の如くしよ。若し本七本と云ふ。法こそ紙をい加く

ぞくてゆうごまきとす
 ととをうて下のまきよ
 のとめてふ石をく
 ありりせつけ
 かくのどく
 下のまき
 うりよの
 まきまき
 へんちにて
 木のまきと
 えさをそとより
 木の根をそとるよとが



おご居さけとよふふと

祢まらざんの仕事

正月に鼠父母おてふ十二正らむおれ
 十四正は鼠二月ありふり十二正
 正月の祝賀九十八正は鼠かくの正月
 一正は祝賀も子も又孫も正月は十二正
 らむ正月二月は何程も成るといふ
 正月二百六十六正は二百五十七万四千
 四百二十正あり 御ま祢まらざん
 七と十二さびうと正月の鼠を
 あらうなり



まゝ子算
 子二十人あり
 内先後の子十
 五人あり
 子十五人かくの
 とくあり
 十にあり
 のけす二十小
 何るとのより
 二十九人まゝ
 のけすのより
 まゝ人小家ま

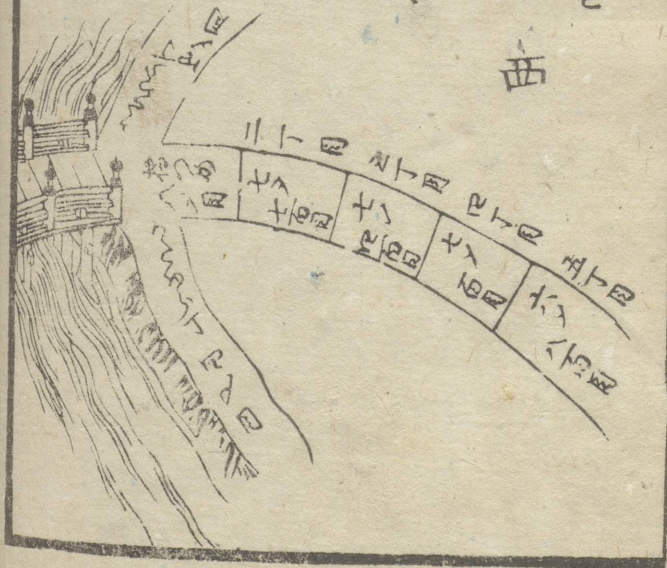


とゆぐらんと
 けふとれあり
 ちかかくのど
 くらて
 さかかど
 ち先
 子みるの
 内原まゝ人



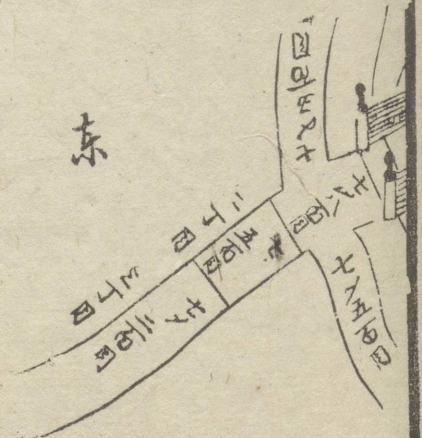
さるまゝ子れ
 よう秋
 結り
 ちのまゝ人

橋着落八用出銀の割
 橋一ツの八用銀八十貳貫五百圓と
 所中一掛るとは橋の西小通町
 五丁と横河原町二丁あり又
 東小通と丁と横河二町あり
 所敷合せ十二町一七町あり
 八用銀出ま付先西橋をさる小
 若くそまうりまを五丁と
 以舟三百圓づつ下げてい
 所系町二町の橋づありあり
 舟がづあり又東橋づあり
 西橋のありあり貳百圓
 まくまくりつてまうり舟又



百七十一

三百圓づつまを三町ありあり
 引て出ーまを二丁の橋の
 あうりまを三百圓づつありあり
 出を積りたりと何と何程
 づにありとどと何あり。西橋
 橋八貫圓西河原町四町あり
 日二町日七町七百圓日二町日
 七町日百圓日二町日七町日百圓
 日五丁日六町八百圓あり



東橋橋七町八百圓東横町七町五百圓日二町日七町五百圓
 日二町日七町五百圓之御と云御と云西の方二二の東に
 又横町二町と合して十五ありと云ふ二百と云ふは二百と云ふ五
 百圓と云ふと云ふを銀を八十二貫五百圓と云ふ又東町あり

百七十七

又町小武百間と云ひ其の百間となるこれに振ると云ひ
 合八十八間あり是と惣数十一ヶ町と云ひ其の百間振の何
 ろの八間用とある是是と以分以引之合惣町数十二町あり
 と十一町ふるるは八町京町五町あり



布一端の之をぬれの
 糸とむよふのをぬる
 此をぬるは仍経
 二里三十一町丈之百五寸
 布長二丈八尺之百寸
 之をぬる人ぬるの寸を寸
 小糸五十寸と云

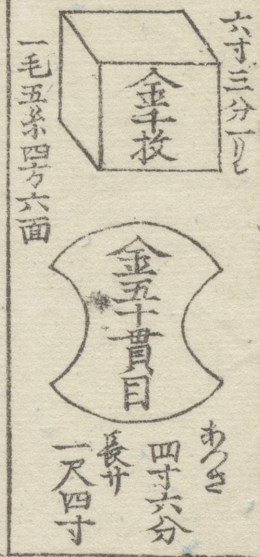


盗人知数

余り八端	一人	余り十一端	一人
余り八端	一人	余り十二端	一人
余り八端	一人	余り十三端	一人
余り八端	一人	余り十四端	一人
余り八端	一人	余り十五端	一人
余り八端	一人	余り十六端	一人
余り八端	一人	余り十七端	一人
余り八端	一人	余り十八端	一人
余り八端	一人	余り十九端	一人
余り八端	一人	余り二十端	一人

○ぬる人布を寸と云ひ其の寸は
 八端より寸と云ひ其の寸は九端
 己の寸と云ひ其の寸は十端の盗人布数

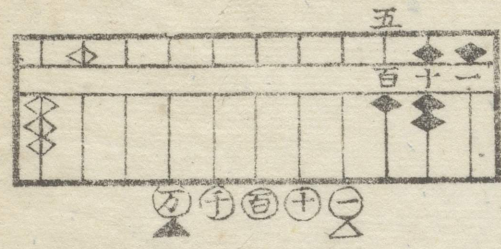
人力車三挺をこのもの二十六八里とすると十八里七人敷四人を
 二挺六人分には四里半ほどなりさておれ四里半と人力車
 の数三挺とこのものを置半するゆへのりあつるなり



○金銀手技を測る、積る事
 金手技を測る法を四方六めん
 一と六寸二を置一毛五糸四六
 金手技の重廿四寸四寸と百七十五
 ぬと置はば二五五十一坪二八八
 七一と測る不除る事

銀手技の同四十三寸同を百四十八
 と測る三百七坪二四二八五と
 測る、除る六寸七寸四寸七毛五糸四六
 あり

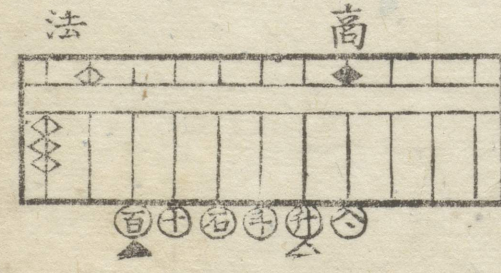
定 位 法



繰除
 繰取
 繰出

今米百七十五石あり三万五千石、別後五人分何程
 普量人の取米五石
 米四米百七十五石と實上二万五千石と別一人の米と取る

實と法(高)のどく、實の初一
 左と右位と一十百千と法の物の
 法と進む法の物の二万右方の位と
 止る初一の物、高の生、物と實の初
 の位初位の位と、高の位と、高
 實の物の位と、高の位と、高の
 物と高の百石と一十石斗升
 人と空うを位と、高の位と、高
 人の位と、高の位と、高の位と、高



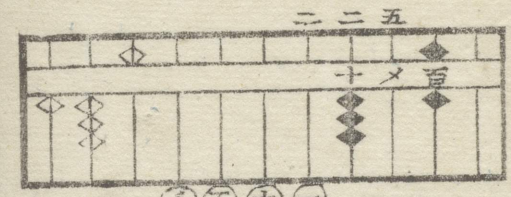
百八十一

今張二十貫五百目と千三百五十人、割後一貫人の取張と問

答張貳十貳枚五下

御の取張二十の五百目と実と一子二百五十人を法止以てりる

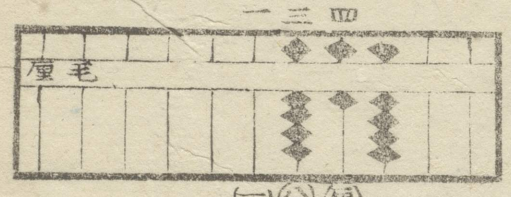
定 位 法



実と法一貫のぶく、並実の物の後の下
 桁を一の位と字の二百と法の物
 の位と進む法の物後千四百十の
 位と止る初七の桁と並る字桁と
 実の物の位とと高の位を字む
 高の十とと一十と百十一とと右へ
 左へて位とるる高の物の位十の
 字系並る四二十二枚五下と初見

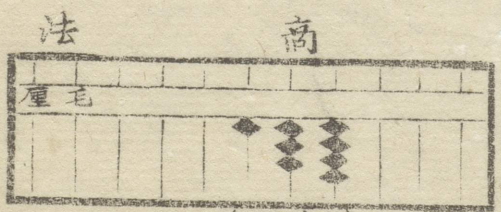


定 位 法



今張四十六貫九百枚と一枚二重五毛の紙と買紙数何張と問
 答紙員百二十四枚

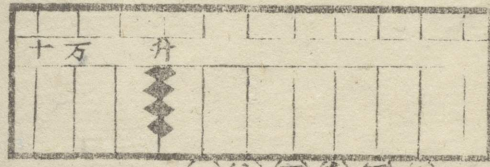
實と法一貫のぶく、並実の物の位の
 一桁と一の位と一分と法の物
 の位と進む法の物後千四百十の
 位と止る初七の桁と並る字桁と
 実の物の位とと高の位を字む
 高の十とと一十と百十一とと右へ
 左へて位とるる高の物の位十の
 字系並る四二十二枚五下と初見



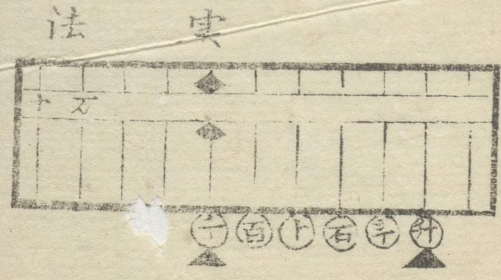
今人数十五万有り 六分米四升と法より石高何程と問

一石高の六分石 實之法一畧の如く逆算の物の位より下より右と一の位より一十百千と法の物の位程遠く法の物の位は十万人十方の位を止る刻の物とあるは物と實の物の位より一を右に後位を定む實の物位は升と法にて一の物と升より一升斗石十石而して九の位と名を物位は千石の物とあるは六分石とあるあり

定 位 法

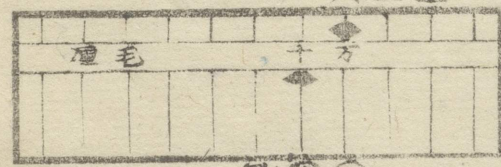


今人数十五万有り 六分米四升と法より石高何程と問
一石高の六分石
實之法一畧の如く逆算の物の位より下より右と一の位より一十百千と法の物の位程遠く法の物の位は十万人十方の位を止る刻の物とあるは物と實の物の位より一を右に後位を定む實の物位は升と法にて一の物と升より一升斗石十石而して九の位と名を物位は千石の物とあるは六分石とあるあり

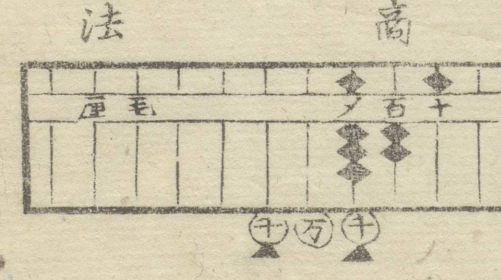


今紙を枚綴五厘又毛のり十五枚の代綴と問
善八費二百五十由
紙の一枚の代綴五厘五毛と法より十五枚と實と法と名代綴と法
實之法一畧の如く逆算の物の位より一の位と一の位より一を右に後位を定む實の物位は升と法にて一の物と升より一升斗石十石而して九の位と名を物位は千石の物とあるは六分石とあるあり

定 位 法



今紙を枚綴五厘又毛のり十五枚の代綴と問
善八費二百五十由
紙の一枚の代綴五厘五毛と法より十五枚と實と法と名代綴と法
實之法一畧の如く逆算の物の位より一の位と一の位より一を右に後位を定む實の物位は升と法にて一の物と升より一升斗石十石而して九の位と名を物位は千石の物とあるは六分石とあるあり



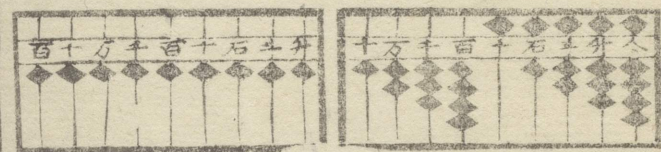
洋算畧

90	九十	14	十四	1	一
100	百	15	十五	2	二
200	二百	16	十六	3	三
300	三百	17	十七	4	四
1000	千	18	十八	5	五
		19	十九	6	六
10000	万	20	二十	7	七
		30	三十	8	八
100000	十万	40	四十	9	九
		50	五十	10	十
1000000	百万	60	六十	11	十一
		70	七十	12	十二
0	零	80	八十	13	十三

西洋數字

百八十三

布算之圖 同



今米十二万三千四百
五十六石七斗八升九勺

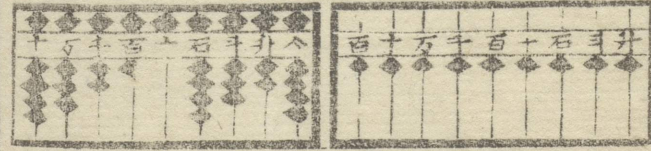
九十八万七千六百五十四石
二斗二升一合を加へて行程

壹百一万千百一十一石
一斗一升

米百一万千百一十一石一斗一升
十二万二千四百五十六石七斗
八升九勺行程何程と同

壹九十八万七千六百
五十四石二斗二升一合

加の口の圖 減の云の圖



法	實	商
六〇五 605	三四三〇三五 343035	五六七 567
	3025	
	4053	
	3630	
	4235	
	4235	

今根之四百二十の之を五重けり是を六百〇五人以

除法

割るべきとけいき人分根程と成と同

昔四根五各六ト七重

棚々云實の三四三〇より六〇五

五つ引る也商一五二五法の又と

當二十^{十位}五を引る法の〇と案

一零^{十位}の亦法の六と案二十^{十位}

九九合數

2	1	1	1	1	1	1	1	1
2	9	8	1	6	5	4	3	2
1	9	8	7	6	5	4	3	2
3	3	2	2	2	2	2	2	2
4	3	9	8	7	6	5	4	3
1	9	8	7	6	5	4	3	2
4	4	4	4	3	3	3	3	3
7	6	5	4	3	2	1	8	6
2	2	2	2	2	2	2	2	2
6	6	5	5	5	5	4	4	4
7	4	4	4	3	3	3	3	3
2	2	2	2	2	2	2	2	2
0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0

せりけ等と共あり三〇二五とあると是と實の二四三〇ハ
 引け四〇五のろと是亦實の二と下一加四〇五と一
 線の下あるは中より法の六〇五の六〇引るゆゑ一六を
 互法の五〇六と兼一と六と〇と好と是と先の残り数四〇
 五とより引け四二とのろと是亦實の五と加一を下の下一記
 高七とまで法五〇六と兼一四二と五と好と一

兼法

今銀五匁六分七厘あり是と六百〇五と兼一何程同

善日銀之費四百二十分〇之分八厘

御田五六七と書生十(六〇五と書此五と七と兼一二十又と好亦
 上の六と兼一二十と好亦上の五と兼一廿五と好共二八二五とある

五六七
 567
 605
 2835
 000
 3402

是を後の下一記一亦次の〇と上の七六五兼
 〇〇と好二八二五の下一記一亦次の六と上の
 七と兼一廿二と好亦上の六と兼一十六と
 亦上の五と兼一二十と好共二〇〇二と

今帳百七十八の式あり是を九十九に除くは何程と問

答 帳百七十八より

高の實の一七八より九九の一ツ引る

高一七九九を引上の一七八より是を

引るは七九のときを引上の二と下

七九二より高一八七を法とあり七九

二と引て凡そ

法	實	高
九十九	百七十八	一八
99	178,2	1,8
	99	
	792	
	792	

今帳百七十八の式あり是を九十九に除くは何程と問

答 帳百七十八より

高の實の一七八より九九の一ツ引る

高一七九九を引上の二と下

七九二より高一八七を法とあり七九

二と引て凡そ

より一十百と位と引る

八
1,8
99
162
162
178,2
百七十八

今後百〇四食七十六小除る同ハ何程と同

昔後六食五ト

御田實の^{百十}一〇四を法の二六の六ツ列る實高^六と

法の六と乘り^{二十}六と爲亦商の六と法の^一と

六と爲るは^二ツと共^一九十六と成^七と實の^下一紀

後横を^七と行百〇四八^九十六と引^八と結

共八^{十六}と^七と行^八と書^八と〇と行^八と

と^高五と^法の六と^乘り^{二十}と^爲る^又商の^五

と^乘り^五と^爲る^共一^{八十}と^成と^結る^一紀^一と

商	六	五	六	五
實	七	四	七	六
法	一	六	一	六

80
80

今後六食五分あり是七十六乗一何程と同

昔後百〇四食

御田六食五分ありと付るハ^一位^当り^の位^有る^故有り^法の^六と^上の

五と^乘り^{二十}と^爲る^亦上^六と^上の^六と^乘り^三十六と^爲る

共^一と^九と^零と^零と^横結^の下^一と^零と^後

法の^一と^上の^五と^乘り^五と^爲る^亦一と^上の^一と

乘^一と^六と^爲る^共一^六と^五と^爲る^一と^九と^〇の

下^一紀^一再^一と^九と^〇と^六と^五と^共一^一と^〇と^〇と^爲る

後^一と^一と^十と^百と^位と^同百^〇と^四と^食と^零と^零と

五	六	五
16	39	0
65	40	0
10	40	0

今令百山ありを分類するに何枚と同

善 壹分判四而枚

術の四一〇〇と書下六〇と出計〇と

上の〇〇一と壹一〇〇〇と得又六上の

〇〇一と壹一六〇〇と得是と先の〇〇〇

と合六〇〇〇と得

術の四六〇〇〇と實より一五と法と一

六〇〇〇の中より一五八四引る由

引る由高の四と壹法の五と壹と

又一壹と六〇と得

百	100
	60
	000
	600
百	6000
六	六

六	6000
十	400
引	60

除法位附秘傳

假令の假百〇四を十六に除因の假六百五と成

術の四一〇四と實と一六と法と一 實と除を因の四〇

一の中より十六が引る由は又次〇一と

共一〇一〇ふあての由は法の十六に引る

依て一〇四の中より法の十六が引る由

商の六の処一と得一實の一の中引る由

商の六が百位と得又實の一〇より引る由商の六

が十位と得又實の一〇より引る由一と得

高	六	五
	6	5
實	四	104
	百	96
法	六	16
	十	

80

80

算法位付秘傳

假令銀六匁五トと十六匁一何程 答 銀百〇四匁

船四六匁五トと十六と 差ハ書ハぬの一様

さる由なる又つと上下につさるハ

一様寄放付るなり 〇最初六と上

の五と六と案一二十九とせざるハ

二十九匁又次の一と上の五と六と

案一六五とせざるハ二十五匁ニ

算法指南終

6,5	
16	
<hr/>	
390	
65	
<hr/>	
10	0
百位	十位

家傳 清涼香

法わりのきう 大袋入
 小袋入

此清涼香ハ世々有名ニシテ其味ハ清涼ニシテ
 〇銀の百とて計らうなり 〇四世平太判りて抄あり
 一は中御門御恩に水法つらひの儀には清涼香ハ
 大まきに造りてのつやうなり 〇一は長らく
 かへばまに造りてのつやうなり 〇一は長らく

東京 賣所 馬喰町三丁目

吉田屋文三郎



